



# カリオカの風

リオデジャネイロ日本人学校通信

7月号

令和6年7月 2日  
校長 小塚 広司

学校教育目標

「やさしく

かしこく

たくましく」

～世界の架け橋となる子ども  
たちの育成を願って～



## 地域（ブラジル）とともに、子どもを育むリオ日学 ～努力したことが必ず形となり、ほめてもらえる喜びに変わる～

日本では、コミュニティー・スクールという学校運営の形が導入され、全国の約6割の小中学校が取り入れています。

これは学校と地域が力を合わせ、子どもたちのより良い環境づくりに取り組む「地域とともにある学校」を目指すための仕組みで、この導入によって子どもたちは、「生きて働く知識と技能」「学びを人生や社会に活かそうとする力・人間性の涵養」「未知の状況にも対応できる思考・判断・表現力」を身に着けることができます。

6月15日（土）、第51回運動会が開催されました。リオデジャネイロ日本人学校児童生徒数は9名（小学部6名・中学部3名）ですが、保護者・商工会員・モデル校生徒・連邦大学生・州立大学生など参加者合計は120名でした。

学校運営委員会を母体として、9人の子どもたちのために、こんなにもたくさんの方々が一緒になって交流できることは、まさにコミュニティースクールであり、子どもたちが育つ最高の場であると言えます。

一番注目の演目は、『ソーラン節』でした。毎年、子どもたちが何かしらの演舞を披露しますが、『ソーラン節』に決まってからは体育の授業を中心に、毎朝始業前も練習し、振付のキレと掛け声の威勢の良さを磨いてきました。歴代のハッピーを着て踊ると、会場の人々は固唾をのんで見守り、演技が終わると大きな拍手と歓声に包まれました。子どもたちは、やり切った満足の表情で安堵し、最高の笑顔で閉会式後の全員記念写真に納まりました。

「努力したことが形となる・ほめてもらえる喜び」にあふれるリオ日学は、教育の原点となる真理を実現しています。この経験が必ずこれからの人生を支える大きな力となるはずです。

### <運動会フォトアルバム> 開会式



### 畳リレー



### 学年別競争



### ソーラン節



### 大玉送り



### 閉会式





○ リオの方々と共に、架け橋を築く！

6月24日(月)、リオ・神戸市姉妹都市提携55周年記念式典に子どもたちと教員が参加しました。2時間の式典で、君が代・ブラジル国歌・「Rio e Kobe,Cidades-Irmãs 神戸とリオ、繋がる想い(オリジナル曲)」・「Cidade Maravilhosa」を、地元の合唱団と一緒に歌い、大きな拍手とブラボー！の賞賛をいただきました。

神戸市出身・音楽講師の熊本尚美先生は、リオ市の依頼で、記念曲を作曲され、ピアニスト・レアンドロさん(夫)の伴奏とご自身のフルート、リオ在住歌手のMAKOさんと演奏しようと思っていたのですが、子どもたち・教員・リオ市の合唱団を巻き込むことを発案し、実現しました。

ポルトガル語の歌詞を覚えて歌うことはとても難しいのですが、朝から何度も練習し、高い天井の市議会場(Câmara Municipal do Rio de Janeiro)に歌声を響かせることができました。

参加した日系人の方から「涙が出る思いだった」とほめていただき、全力で歌う気持ちよさを味わうことができました。式典の後、貴賓室に招かれ子どもたちは『ソーラン節』を再び踊り、これも大きな拍手に包まれました。

「地域とともに、地域の力で子どもが育つ学校」

「努力したことが必ず形となる」「ほめてもらえる喜び」。確かな手応えを感じるこの行事に参加することができ、多くの方々に感謝いたします。

この良さをより多くのリオデジャネイロ日本人社会の皆様に伝え、より多くの子どもたちに体感してもらいたいと願います。これからも、しっかり情報を発信し、一層魅力的な学校を築いてまいります。



○ 「聞くこと」から喜びを味わう

2カ月に一度、全校朝会でリオ日学の教員が順番に自分の専門分野や興味のあることを題材に、子どもたちに話をします。

「聞くこと」から話の内容を理解して、自分ならこう考える、自分の生活に取り入れてみよう、など主体的に物事に向き合い、意見が言えるようになることをねらいとします。

「話を聞く喜び」を味わうことのできる子どもに育ててほしいと願います。

< 5/ 2 下田先生「自分の良いところ」 >



自分の良いところは何でしょう？頭に浮かびましたか？浮かばなかった人は、最近ほめられたことは何でしょう。私の場合、「やろうと決めると、とことんやる」という良い

ことの方、「頑固」でもあります。こうしようと決めると、そこから離れられません。これは、自分の良し悪しの言い方を変えて言っただけで、良いところと悪いところは表と裏の関係にあります。皆さんも同じです。例えば、けんかをするのは悪ですが、相手に興味があるからこそと思えば、良いことでもあります。考え方次第です。自分の特徴を知り良い方に持って行ってほしいです。友人に対しても同じです。そう考えれば、相手の良いところを見つけられるはずです。

リオ日学は子どもの数が10人です。「少ないからできない」よりも、「少ないからできることがある、少ない人数でやるからスゴイ」と考えるのです。これから始まる運動会が楽しみです。

< 7/ 1 山本先生「自分のできること」 >



これは図書室にある星野富弘さんの詩集です。星野さんは中学校教師で体操の先生でしたが、誤って鉄棒から落ちて首から下が麻痺してしまいました。トイレも食べることもできなくなった中、母

に手伝ってもらい、筆を口にくわえて文字を書き、何年もかけて素晴らしい絵を描くことができました。もう一冊、原田泰治さんの画集です。日本中の原風景を訪ね歩き、ほのぼのとした温かい絵を描きます。小児まひという病気で歩くことが不自由でしたが、日本からアメリカまで旅をして絵を描きました。

人はできないとあきらめてしまいますが、自分のやれること、できることを探しましょう。健康・元気でいられることは当たり前ではないことを2人の絵から学んでください。2人とも亡くなってしまいましたが、今月七夕の夜空に、きっと素敵な絵を描いていることでしょう。

みなさんも頑張ってみましょう。

< 「どくだみ」 星野富弘：詩 校長講話で紹介 >

おまえを大切に 摘んでゆく人がいた  
臭いといわれ きらわれ者のおまえだったけど  
道の隅で 歩く人の足許を見上げ  
ひっそりと生きていた  
いつかおまえを必要とする人が  
現れるのを待っていたかのように  
おまえの花 白い十字架に似ていた